

第 2 章

実現のための戦略

1 戦略の体系

第2章では、基本理念「『希望ふくい』の創造」の下、第1章に掲げた福井の将来像の実現をめざして、これから先の10年間に、県民、企業、さまざまな団体、市町、県が共に考え、行動するための戦略を示し、大転換期にある福井の「活路」を開いていきます。

戦略の体系（5つの「活」で福井の「活路」を開く）

- I 人が生きる(活躍)
- II つながりを活かす(活用)
- III 環境を創る(活動)
- IV 成長を産み出す(活力)
- V 交流を広げる(活気)

◎基本理念

「希望ふくい」の創造

◎福井がめざす将来像

- (1)「縁を活かす」福井流生活の確立と継承
- (2)「アジア交流ゾーン福井」の成長と未来への貢献

I 人が生きる(活躍)

P 5 1 ~

「ふるさと福井」への誇りと愛着を持ち、自らの将来に「希望」を持ってグローバルな視野で行動する人材を育てます。県民一人ひとりが行動力を発揮する「県民活躍社会」を創出し、時代の転換期をリードします。

I-1 「人づくり」先進福井

I-2 県民活躍社会の創出

II つながりを活かす(活用)

P 5 9 ~

福井に残る「家族や地域のつながり」、「人と人の新しい縁」を活かし育てることによって、子育て、高齢者福祉、地域の安全・安心を地域ぐるみで応援します。日本やアジアの先進モデルとなる地域社会を実現します。

II-1 つながりで築く地域社会

II-2 安全で安心な地域づくり

Ⅲ 環境を創る（活動）

P 67～

福井の海・山・里・川など豊かな「自然資本」を守り育て、ふるさとの景観を維持・改善し、美しい「福井の風景」を次世代へ継承します。また、最先端となる低炭素の街づくりを進め、成長するアジアのモデルをめざします。

Ⅲ-1 美しい「福井の風景」創造

Ⅲ-2 環境先端の基盤づくり

Ⅳ 成長を産み出す（活力）

P 73～

商工業や農林水産業など福井の産業の技術革新と「ふくいの後継者」育成を最優先に進めます。多様なニーズに応える商品開発力とアジア・マーケットへの販売力を強化し、アジアの成長と活力を取り込みながら福井の産業の成長を産み出します。

Ⅳ-1 「福井の産業」新展開

Ⅳ-2 挑戦する農林水産業

Ⅳ-3 アジアの成長と活力の取り込み

Ⅴ 交流を広げる（活気）

P 81～

人口減少・超高齢時代にふさわしい新しい街づくりや「ふくい文化」の創造を進め、活気にあふれる「新しいふるさと」をつくります。高速交通網を活用し、国内外とつながる新たなネットワークを築いて人流・物流を活発化します。

Ⅴ-1 新時代の街づくり

Ⅴ-2 交流ネットワーク拡大

I 人が生きる（活躍）

福井の優れた教育力を出発点とし、私たちは「人づくり」の基盤をさらに強化します。県民一人ひとりが「活躍」できる場や機会を充実し、県全体の活力と活気を生み出します。

そのために、次代を担う子どもたちの教育やスポーツの充実（「人づくり」先進福井）、人と人とのつながりによって地域の活力を高める社会づくり（**県民活躍社会の創出**）を進めます。

I-1 「人づくり」先進福井

グローバル化、少子高齢化が進む中、日本の基礎科学、技術開発力、産業競争力の相対的な低下が懸念されています。次の世代を担う子どもたちが激動の時代を生き抜くための多様な能力や資質を身につけることは急務であり、「教育」の充実は、私たちの最も大きな責務の一つです。

日本の教育を支えているのは地方です。地方から「教育の質」を上げていく努力が必要です。福井の子どもたちの学力・体力は全国最上位であり、これを支える家庭や地域も安定し、優れた教育風土が福井には残っています。

このような恵まれた環境の下、世界や日本をリードする人材や「ふるさと福井」の将来を担う人材を育てる福井流の教育を進めます。

福井の子どもたちが自らの将来に「希望」をもって粘り強く学び、行動する「挑戦力」を最大限に伸ばす教育を、県民や企業などの幅広い協力と参加の下で推進します。

一方、スポーツは心身の健康や明るく豊かで活力に満ちた社会づくりに不可欠です。平成30年には国民体育大会が福井において開催されます。これを機に、子どもから高齢者まで、一人ひとりが体力に応じて健康づくりをおこなう風土をつくります。

子どもたち一人ひとりが自立し、健康で豊かな人生を送るための基礎づくりを進め、「人づくり先進県」の確固たる地位を築き上げます。

(1) 福井流の学力・体力を活かし次をめざす学校教育

(2) 体験・交流する地域教育

(3) 「1県民1スポーツ」の健康づくり

(1) 福井流の学力・体力を活かし次をめざす学校教育

- 子どもたちの興味や関心、意欲を高め、活用力や読解力を伸ばす新しい授業法、社会性や規範意識を含めた総合的な力を伸ばすカリキュラムを独自に開発・導入することによって、「社会や世界の動きと結びつく分かりやすい授業」を充実します。
福井の優れた「学力」、「体力」を活かし、子どもたちが激動の時代を乗り切る力を身につける福井流の新しい学校教育を推進します。
- 少子化時代にふさわしい教育環境を県民とともに考え、整えていきます。学校単位に行われてきた教育活動の枠を一步踏み出し、学校同士、学校と地域社会、学校と企業・大学などとのネットワークを築き上げ、「外」の知見を学校教育に最大限に活かす「オープンネットワーク教育」を広げ、「挑戦力」を持つ人材を育てていきます。
また、学力・体力の基礎を養い豊かな心を育む「幼児教育」を重視し、「保幼小、小中、中高の連携」による幼少期から青年期までの接続を重視した教育を推進します。
- これからの時代を生きていくためには、グローバルな視野と能力が欠かせません。グローバル社会をリードしアジアなど世界に貢献する福井人を育てるため、実生活の中に生きる国際感覚や語学力を養う「国際教育」を強化します。
また、経済・社会の新たな活力の源となるICT（情報通信技術）を適切に活用できる人材を育成する「情報教育」、倫理観を持って人類の発展に貢献する科学技術の基礎を学ぶ「サイエンス教育」、アジアの共通言語・文化である「漢字・書道教育」などを、各分野において活躍する県民や企業の力を得て充実します。
- 福井の先人や歴史を通して生きる姿勢、行動力を学ぶ「ふるさと教育」、地域の農林水産業の恵みを知る「食育」などを進め、「ふるさと福井」を愛する子どもたちを育てます。

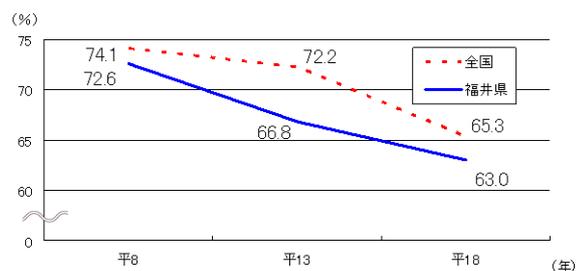
(2) 体験・交流する地域教育

- 福井の小学生が放課後などを安全・安心に過ごせる環境を一層充実するとともに、国内外で活躍する福井人や「社会貢献層」の教育への参加を促し、地域において子どもたちの「夢」や「希望」を育む教育を進めます。
県内各地では、すでに市町や住民団体が協力して進める環境保護や伝統文化の継承などの活動がおこなわれています。「地域教育プログラム」をつくり、福井の青少年が豊かな自然の中で体験活動や環境学習を深める機会を充実します。また、インターンシップなど企業などにおいて社会経験を積む仕組みを強化します。
- ふるさとの伝統・文化、技術の継承など多世代やさまざまな企業との交流を広げるとともに、小・中学生、高校生の地域ボランティア、社会貢献の活動を促進します。
- 変化のスピードの速い時代に暮らしの中で役立つ最先端の知識や技能を高め、また、県民の「ふるさと福井」への愛着と誇りを育む生涯学習の機会を充実します。

(3) 「1 県民 1 スポーツ」の健康づくり

- 平成30年に開催する第73回国民体育大会を契機に、県民が身近で生涯にわたりスポーツに親しめる環境をつくりまします。県民の元氣と創意を国体に結集（1 県民 1 参加）するとともに、スポーツを県民生活へ浸透させる「1 県民 1 スポーツ」運動を進め、広く県民がスポーツとの関わりを持ち続けていくための場や機会を広げまします。
- 幼児の頃から親子と一緒に体を動かす「遊びと運動プログラム」、雪が降る冬季をはじめ季節ごとに家庭や地域、学校において楽しく運動できるニュースポーツを広げまします。
- 県独自の体力テストを市町とともに継続的に実施することにより、子どもたちの「体力・運動能力日本一」を維持・向上まします。
また、拠点校方式の運動部活動の実施、スポーツ少年団活動の活性化、スポーツ指導者の育成と派遣システムの構築などを進め、トップアスリートを広く県民の応援を得て育てまします。

スポーツの年間行動者率
(10歳以上)



出典：総務省「社会生活基本調査報告」

1-2 県民活躍社会の創出

社会構造の変化に伴い権利意識が強まる一方、「社会のために役に立ちたい」と考える人の割合が大幅に増えています。県民への意識調査（平成22年6月実施）においても、地域活動への参加を望んでいる人の割合が半数を超えています。

このような意識の変化は、個人を尊重しながら社会や地域のことを考え行動する「新しい^{わたくし}私」と呼べる新しい生き方の登場を示すものです。こうした県民の気持ちを育て、県民、企業、団体などの活動主体が地域社会の中で「もう一役」を買って出て、活躍する気風をつくり出します。

一方、福井の女性は日本一の働き者といわれています。働く女性の多くは「仕事と家事と地域活動」と、一人が何役も担っています。一方、男性は仕事にとらわれ「もう一役」が十分に果たせないことが多くなっています。

男性が家事や育児へ積極的に参加する気風をつくり女性のゆとりを生み出すとともに、職場や地域社会において女性がさらに活躍できる環境をつくる必要があります。男性がさまざまな場面で新しい一役を担うことにより、社会のつながりのあり方も大きく変わることが期待されます。

また、60歳代、70歳代を中心とする経験豊かで元気な世代が、「社会貢献層」としてその意欲や能力を発揮するための仕組みづくりを進めます。

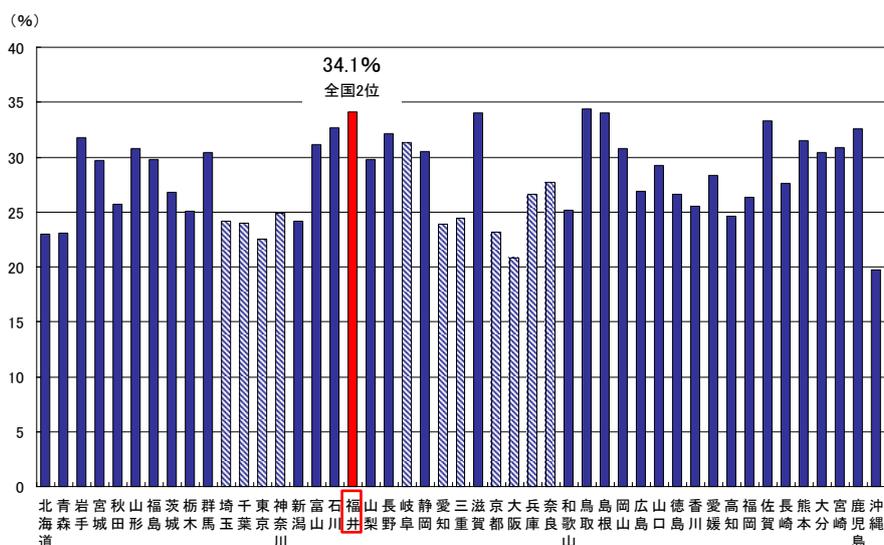
県民の意欲と行動力を最大限に活かし、福井の地域活力を生み出す県民活躍社会を実現します。

- (1) 「一人もう一役」の活躍
- (2) 女性のゆとりと活動の応援
- (3) アクティブ・シニアがあたりまえの地域

(1) 「一人もう一役」の活躍

- 福井は、全国の中でもボランティア活動に参加する人の割合が非常に高く（全国第2位）、河川の美化や子どもの見守り活動を地域ぐるみでおこなうなど、「みんなのための活動」に積極的に参加する動きが活発です。
年齢や性別にかかわらず、一人ひとりが積極的に「もう一役」を買って出る県民運動を展開し、県民の活躍の場を広げます。
- ボランティア休暇の導入を促進するなど、働きながら「もう一役」の活動ができる環境づくりを進め、県民一人ひとりの家庭や地域社会における活躍を応援します。
- 企業やさまざまな団体が得意分野を活かし、福井の環境や文化、教育などを支える「一社もう一役」活動を促進します。
- 福井は障がい者の就職率が日本一高い地域です。障がい者の雇用の場をさらに増やすとともに、賃金の向上を実現します。

ボランティア活動の年間行動者率（15歳以上）



出典：総務省「社会生活基本調査報告」（平成18年）

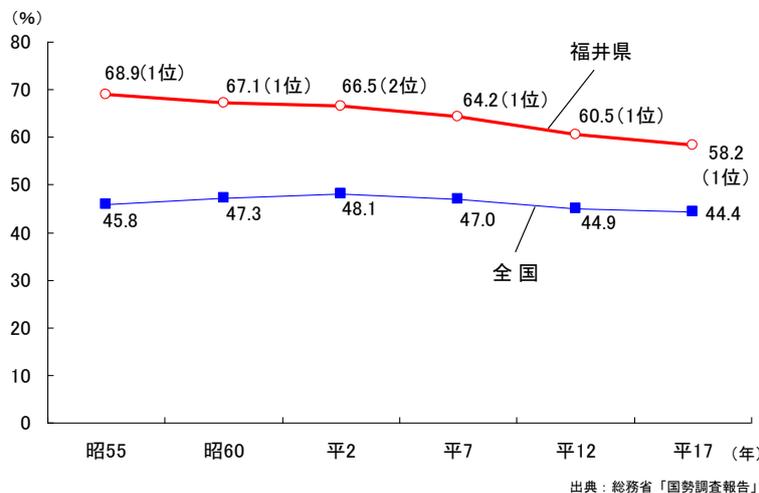
(2) 女性のゆとりと活動の応援

- 女性の活躍は、福井の活力の源です。男性に比べ少ない女性の余暇時間を「1時間」増加させる「女性のゆとり時間プラスワン運動」を進め、女性の生活にゆとりを生み出し、新しい目標にチャレンジできる環境をつくります。
- 男性の家事・育児への参加を促進するための県民運動の展開、家事・育児などホームマネジメント分野においてビジネスを始める「社会貢献層」や若手起業家の応援、女性のネットワークづくりや起業の応援などをおこない、仕事や地域で頑張る女性の活動を応援する社会を実現します。

多忙な福井の女性

- ◆ 共働き率 58.2% (全国1位)
総務省「平成17年 国勢調査」
- ◆ 月別平均労働時間 177時間 (全国1位)
厚生労働省「平成20年 賃金構造基本統計調査報告」
- ◆ 勤務日の睡眠時間は半数が6時間以下
福井産業保健推進センター「平成21年度 福井県の女性労働者のワークライフバランスとメンタルヘルスに関する横断調査」
- ◆ 1日当たりの家事関連時間 3時間37分
(男性40分)
総務省「平成18年 社会生活基本調査」 ※15歳以上
- ◆ 1日当たりの余暇活動時間 5時間46分
(男性6時間18分)
総務省「平成18年 社会生活基本調査」

福井県の共働き率

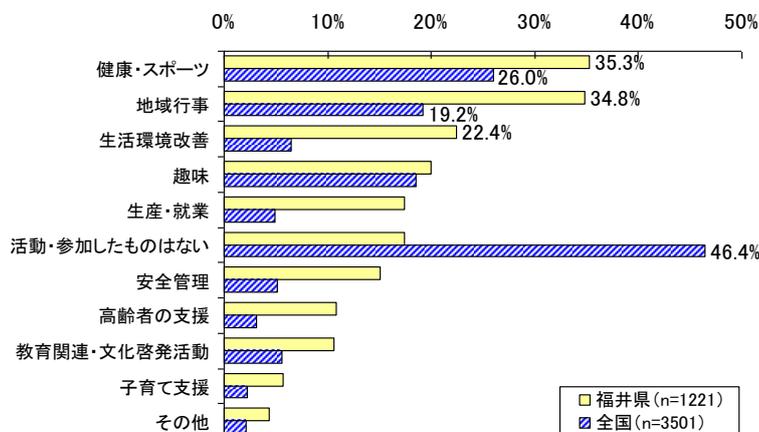


(3) アクティブ・シニアがあたりまえの地域

- コミュニティビジネスの起業や農林水産業への就業支援など、健康で元気なアクティブ・シニア層が「社会貢献層」として「もう一役」できる活動の場をつくり、地域社会の中の人と人とのつながりを強化します。「社会貢献層」の活躍によって、福井の地域活力はさらに高まります。
- 「社会貢献層」の持つ卓越した技能を次の世代に伝承するための登録・派遣の仕組みづくり、「社会貢献層」がケアの必要な高齢者を支援（買物、給食、見守り）する仕組みづくりなどを進めます。
- また、就業中の熟年世代を対象に、退職後の地域活動やボランティア活動に関する情報提供をおこなうなど「地域リターン」を社会全体で支援します。

福井県民が参加した活動（60歳以上）

「この1年間に、個人または友人と、あるいはグループや団体で自主的に行われている次のような活動を行った、または参加したことがあるか」を以下の項目からいくつでも選択



出典：福井県「県政マーケティング調査」（平成22年6月）
内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」（平成21年度）

